

ひとはろうしん



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

実りの秋を迎え、田んぼでは稲刈りが進んでいます。新米が美味しい食欲の秋、皆様いかがお過ごしでしょうか。

書き出しは「秋」ですが、今号は児童部門くらむぼんでの夏休み期間の活動の一角について。児童部門では、放課後や長期休暇中も含めて、子ども達の成長を意図して生活体験に係る活動を行っています。夏休み中の調理活動では、去年より今年、前回より今回と調理が上手になっていきます。

A君との会話の中で、「僕って1年生の頃、よく泣いていたよね」と、以前の自分自身を振り返る言葉が聞かれました。そして、調理活動を通して、私が「すごい上手になったよね」と声を掛けると「当たり前じゃん」と、自分でも自身の成長や変化を実感しています。人はともすれば、自分以外の誰かと比較して自身のコンプレックスを自覚し、時には悩みの種にもなります。以前読んだ「心理学の類の本に『同じ比較するのならば過去の自分と比較しては』と書いてあることを思い返し

ました。A君は過去の自分と今を比較して「僕は、僕でいいんだ」と実感しているのだと驚きます。私たちの活動が、子ども達の成長の実感につながるものとなるように、これから意図した工夫をしていきたいと思っています。

(児童部門 佐竹正亮)



あたらしく入ったひとほの仲間たち

きらら

所属
ひとは工房 すぎ亭

名前
平田 暁識

好きな食べ物
しょうゆラーメン

好きなこと
ゲーム
レクリエーション

スタッフ

高校生の時には「**王**に明日ね」と言っていた友人との別れの言葉が卒業して大学生になると「**王**に今度ね」と変わる切なさがあある。6月、高校の文化祭。髪を明るく染め隣を歩く友人が、たった数か月会わなかつただけでひとく懐かしく感じた。でも、私が好きな**ひとは工房**
ひとは館
(学生アルバイト)
山田 琴

高校のままだった。三年間の思い出をたどりながら、友人と二人、いつまでも笑いあっている。

「ひとはまつりを終えて」

9月7日、「ひとはまつり」が閉かれた。前回は実行委員として参加はしていたが、「西日本豪雨」の影響で中止という「悔しい」「虚しい」結果に終わってしまった。その分「今年は絶対何があっても成功させてやる」という心いで準備を進めてきた。しかし、準備を進めていく中で「よし、やはりどこかシンドく「ひとはまつり」の廃止も良いんじゃないか」という思いが頭をよぎったこともあった。

そんな時に、色々な面で特に支えになってくれたのが「ひとはまつり」の実行委員長「谷川恵美さん」。自分には、この人の存在は本当に大きかった。谷川さん、ありがとう。そして、その他数多くの場面で支援を頂きました。ありがとうございました。

実行委員長 **河野大輔**

ひと

「Kさんと私」

今年の夏休み、中高生グループは人数が少なく、Kさんと2人で活動することになった。食卓の準備等は小学校高学年の子も達と一緒にやった。洗いのものは、中高生グループが担っていて、毎日人数分のコップとおわんを洗っていた。グループに3人以上いれば一人一役だが、2人だと何役もしなければならぬ。

そんなある日、Kさんがおやつを食べながら「高松さんは、拭いて片付け。私は洗って洗濯します。」と言ってきた。給湯室で2人、それぞれの仕事を黙々と行った夏を振り返っている。

(ひとほぼこ 高松悦子)

「あんちゃんすき...」

は

昼食後、のんびり過ごしているきららの仲間に「こんにちは」と挨拶しながら、私は午後からの出動です。手を振る人、ハイタッチで迎える人、一人一人違いますが、河野崇史さんはすぐ近くまで来て、「こっぴどい首をかしげ、しっかり目と目を合わせ、何か一言。そしてスーッと離れるシャイな河野さん。

ある日、一緒に活動しているとき、ポツンと「あんちゃんすき...」とレトロな「あんちゃん」ですが、河野さんの口から出ると優しくて本当に「あんちゃん」が好きなんだなと。(私わかしに気分になりました。)

(ひとほぼこ 今井志保子)

日

「後輩に刺激されて」

仮店舗での営業をスタートさせたひとほ館たかた産直市店。勝手が違う場所での店番でみんなも少々緊張気味。

看板娘の一人、服部さんと久しぶりと一緒にお店に入った時のこと。仕事をお願いすると「はい!」ととっても気持ちの良い返事が返ってきました。「めっちゃくちゃ良い返事じゃない」と言うと、「(後輩の)中島さんが頑張ってるから、私も頑張ろうと思って...」と笑顔。実は私が入る前にスタッフに「笑顔と返事とまじめ行動でがんばろう!」と言われ、繰り返して唱えながら「出田さん、笑顔になってくれるかな」とつぶやいていたそうです。

来春、たかた産直市店は「道の駅店」としてオープンします。「縄文あひす」の看板娘たちの素敵な笑顔に磨きがかかることを期待しています。(ひとほぼこ 出田広志)

「お気に入りは何ですか?」

昼休憩、何かお気に入りはないかと探し物をしている外輪さんの姿を見て、今年のきらら一泊旅行でのことを思い出しながら途中に寄ったサービスエリアで木のしゃもじを購入した外輪さん。そこには「幸福」の文字が。「合格、必勝、よしよし」がある中で、幸福を選ぶとは...素晴らしい!!」と大島さんが大絶賛。

今年もきらら旅行の準備が進んでいます。今年はどうなお気に入りが見つかるのでしょうか。

(事務局 竹内宏美)

「やりがいを感じる」

今年度より、かきから作業のかわりにもみから苗箱洗浄の作業をすることにいたしました。単調だった作業から体を動かす作業になると、特に変化を感じられたのは藤原さんです。活き活きと働く姿や楽しそうな笑顔を見ると、「やりがいを感じているんだな」と表情で伝わります。自分はアグリ2年目になります。1年経馬検すると、どうしても「こうするのが当たり前」という固定観念にとらわれがちになるので、常に頭を柔らかくして、きららの仲間のできる力を発見していきたいと思っています。

(就労センターあぶ 常川宏)



編
集
後
記

大学4年生のころに自動二輪の免許を取得し、今は中型バイクを持っている。気候のいい時期は休日に思い立ってツーリングに出かけることもあるが、最近では「思い立つ」こともめっきり減り、馬車輪場に眠っていることか? 9月になってしまった。そんな今年の秋の終わりのこと。久しぶりにバイクを出そうと思ったら、ついにエンジンがかからなくなってしまっていた。バッテリーを充電してもダメ。放置していたので動かなくなってしまった。お手上げ状態のまま冬に突入。年が明け、季節は夏になり... いいかげん何とかしなければ、と修理に出し、8ヶ月ぶりに息を吹き返して戻ってきた。今年こそはマメに乗ってあげようと思いついた。今年も夏だ。今年も夏だ。(順吉に乗っています) (白井くみこ)